



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2022年10月1日（第92号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL (88) 6639 FAX (88) 3231

秋の自然観察会

～末山・くつわ池自然公園のきのこ、植物、昆虫など、
秋の生き物と自然を満喫しよう！～

2022年10月29日（土）
午前9時～正午（予定）



集合：末山・くつわ池自然公園駐車場

※受付で入園料（大人500円/人、小学生200円/人）、駐車料金（500円/台）を支払ってお入りください

定員：40名

町内外どちらからも参加可能（参加料は無料、小学生以下は保護者同伴）

- 参加申し込み：10/3（月）～10/21（金）の間に、下記いずれかの方法で申し込んでください。申込時に参加者全員の氏名、住所、電話番号（グループの場合は代表者の連絡先でもよい）が必要です。
- 申し込み先：エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町役場建設環境課）
電話：0774-88-6639（平日8:30～17:15）
FAX：0774-88-3231
Email：junkan@town.ujitawara.lg.jp（FAX,mailとも21日17:15締切）
- 持ち物等：山歩きに最適な服装（長袖、長ズボン、帽子、歩きやすい靴）飲み物、必要に応じて虫よけ、かご、袋、虫網等。

※申し込み受け付けは締切日または定員に達し次第締め切ります。

※解散後の行動は自由です。

※雨天等により中止する場合は参加者に連絡いたします。



オオキツネタケ



樹木の花ノリウツギ



春に咲いていたアケビ

毒きのこへの注意点

先日「危険な猛毒きのこが増殖中！」などとテレビ番組の中でカエントケやドクツルタケなどの危険性や注意点が報じられ、各地の公園などでは注意看板を掲示したり、発生したきのこを除去する動きがあります。

たしかに、カエントケやドクツルタケは少量を食しただけで死に至る可能性があります。これらに限らず自然界にはスズメバチやマダニ、ウルシなど毒や病原菌を持つもの、触ることでかぶれる生物が多数生息しています。でも、これらを完全に駆除することはできず、一步も外に出ず生活することは不可能なため、正しい知識と備えで身を守ることが大切です。特に、きのこ、山菜、木の実^わは誤って食べないこと^わでかなり危険を回避することができます。（事務局 波部 健）

危険を回避する大原則

※毒きのこを見つけても特段通報する必要はありません

・野生のきのこなどを「食べない」「もらわない」「人にあげない」

※スーパーなどで販売されている栽培きのこはおいしくて安全です



カエントケ
(厚生労働省 HP より)



ドクツルタケ (岩瀬委員提供)

※町HPの「宇治田原町の野生生物」ではカエントケについての注意喚起を掲載しています。

※厚生労働省HPの「毒キノコによる食中毒に注意しましょう」でもくわしく解説されています。

生態系

人間や人間を取り巻く自然などの相互関係。一見、無関係に見えても、それぞれ深い関係を持つ場合があり、不必要に見える虫等も、生態系の中で思わぬ存在価値がある。

人間はなかなか単独では生きられず、いや、自然とのつながりを持ちながら生きている。そのことを常に意識し、感謝を忘れてはならない。

森の中にいる昆虫が絶滅したとする。この場合は昆虫だけでは終わらない。

昆虫の受粉で子孫を増やしていた植物が絶滅し、やがて森が機能を失う。

このように人間を含め、命あるものの活動には必要なものが多い。

僕は週2回、子供の通学の際の見守りを続けている。ボランティアとの名の下で貴重な運動源でもある。

10年以上の活動の中ではいろいろなことがある。

その昔、担当する班にわんぱく二人組がいた。ガサガサすることもあり、注意したこともあった。

ある日、わんぱく組の一人が休んだ日があった。驚くほど通学隊はスムーズに学校を目指す。ところが、僕は全くこのスピードについていけず蚊帳の外。見守り隊の役割を果たせなかった。

ゼイゼイ息を吐きながら、わんぱく二人組を懐かしむ。（会長 芦原 昇）

エコパートナーシップうじたわら賛助会員

宇治田原町 宇治田原工業団地管理組合 宇治田原町区長会

エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町建設環境課内）

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧くださいませ

宇治田原町役場HP「MENU（くらし・手続き）」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

茶文化の源 水・緑・生命の環^わを育む和みのまち 宇治田原